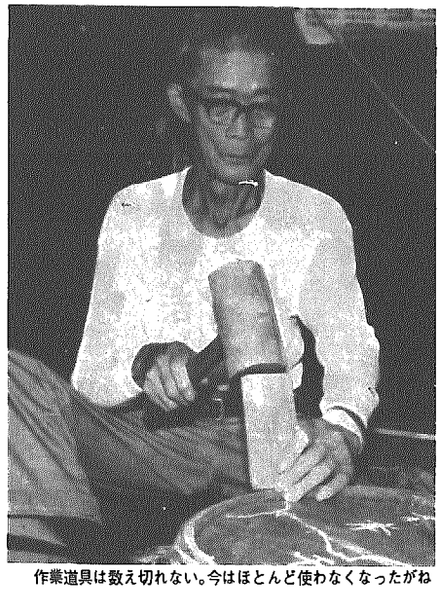
〝ただやってきただけなんですがね…〟

県母子愛育会から表彰された後藤コウさん（75歳）

もう一人、地域にがっちり根を下ろし頑張った人がいます。岩室の後藤コウさんがその人です。助産婦として、また戦時中は保健婦としても活躍されてきました。この間、取り上げた子どもは数え切れないほど。現在は現役を退いていますが五十年に及ぶ献身的な活動が認められ、今年六月、県の母子愛育会から表彰されました。「はずかしいですね。ただやってきた（仕事を）だけなのですがね…」と照れくさそうに笑う。



作業道具は数え切れない。今はほとんど使わなくなったがね

〝技に生きる〟職人の誇り

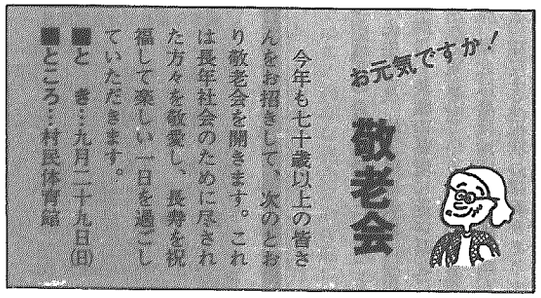
和納4区　**阿部秀穂**さん

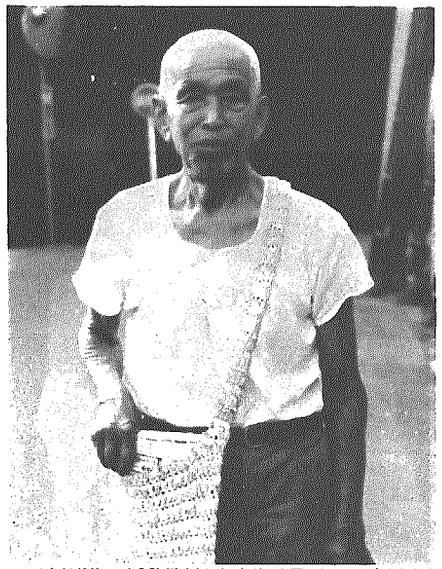
（明治40年8月3日生まれ）

数え年十四歳（大正八年）、吉田町の桶（おけ）職に見習いに入った。「そりゃ厳しかったねえ。わたしらみたいな見習いは朝早くから夜遅くまで働きずくめ、睡眠時間三～四時間なんてのはざらだったねえ」辛い修業時代だったが、半面、教わることも多かった。「あのころの職人は意地があった。〝気に入った仕事が出来なければお客に渡さない〟ということを学んだのも、見習い時代のおかげ」と阿部さん。これまで阿部さんが手がけた桶や樽（たる）、ひしゃくなどは数知れず。しかし、それも戦時中までのことであった。戦後、プラスチックなどでできた家庭用品が普及してからは、ほとんど需要がなくなり、阿部さんより若い職人は皆、転職してしまった。現在では時折来る修理などの仕事に村内唯一の〝桶職人〟の意地を誇りに伝統を守り続けている。

生活にうるおいを

先月八日、橋本公会堂で村菊花会の菊盆栽講習会が行われました。五月から毎月開かれているもので、愛好者には指導会も兼ねていて人気があります。「この葉は不用ですね。こうやると全体のバランスがとれますよ…」と慣れた手つきで、せん定する講師の鷲沢実さん（久保田・76歳）。間もなく菊の季節。たん精込めた会員の鉢植えの菊もきれいに咲くことでしょう。そしてここにも趣味を通しての一つの生きがいの姿があった…。





2年ほど前、一度入院(腹部)したが、どこも悪くないって出されたよ

雨ニモ負ケズ　風ニモ負ケズ

西中　**阿部三之定**さん

（明治32年10月15日生まれ）

毎朝、きちんと届くものに新聞がある。毎日なに気なく見ているが、一年三百六十五日、ほとんど休みなく手元に届く――。西中・牛島地区を担当している阿部三之定さんは、新聞配達を始めて三十年は超えるという。「新聞が家に届けられるのが朝五時半ころ。それからたった二十一軒分でしかないが配る。以前は北野の方まで配っていたんだがね…」。配達姿は新聞少年にみる、肩ひもは使わず、特製の手編みの袋に入れて配る。

毎日コースが決まっているよ。この家の次はそこを通って裏へ出て…」と二十五戸あまりの牛島地区を最短距離で回る。朝四時半ころ決まって起きて軽い散歩。その後配達に。「毎日、新聞配達という適度な運動をしているのが健康の秘けつかな、それと朝一番のおはようのあいさつ…」と八十五歳の顔が朝日に輝く。

人形はみな、欲しいと言われる人のために作るんだよ

ふれ愛の人形づくり　手の技、手の誇り

間瀬5区　**宝輪トメ**さん

（明治30年9月26日生まれ）

メリンス地の淡いピンクに梅の花――綿をまるめてつくった顔にやさしさがこぼれる。一枚の布、一本の針を操って正確にぬい合わされたかわいい人形。御年八十七歳になる宝輪トメさんは、数え切れないほどの人形やおりん台を作った。あるものは優美な繊細さで、あるものは、ほのぼのとした素朴な温かさで、それぞれに宝輪さんの知恵と工夫が感じとれる。「昔の人の器用さには、頭が下がりますね。何しろ型紙もなくって、頭に描きながら作っているそうですから」と感嘆する、お嫁さんのキヨさん。指先の器用さだけではない、畑仕事もこなす〝きっついババ〟としても有名だ。糸と布が一体となって宝輪さんが作る人形たちには、「人生が織り込まれているのかも知れません」とほほえむ――。